

世界の発展のために働く

SGH講演

- 実施日 平成30年7月11日(水)
- 生徒 5回生(74名)
- 講師 国際連合食糧農業機関(FAO)
駐日連絡事務所長
ムブリ・チャールズ・ポリコ 氏
- 演題 Working for International
Development

FAOの仕事

「世界食糧デー」として知られる10月16日は、1945年にFAOが設立された日です。世界の農業開発を資金面で支えるIFAD、災害や戦乱等の切迫した状況での緊急食糧援助を行うWFPと並び、FAOは世界中の自立した食糧生産のために、農業や漁業、林業などに関わるあらゆるデータの収集と分析を行います。さらに



様々な利害関係を持つ国家や地域に公平なディスカッションの場を提供しています。FAOにより得られるデータは誰も無料で利用できることをポリコ所長は強調しました。

We need you! ~より多くの日本人を!

日本のFAOへの拠出金は世界第2位にも関わらず、世界に3,400人以上いるFAO職員の中に、日本人は現在40人しかいません。ポリコ所長は、勤勉で、「もったいない」の精神を知っている日本人がもっと多く必要だと訴えました。

AKB Future Project 推進委員会

また正規職員だけではなく、ボランティアやインターンとしてもFAOの活動に携われることが紹介されました。

世界の最新食糧事情

世界の人口の約1/9が十分に食べる物がない一方で、世界で生産されている食糧の約1/3が廃棄されている現状が紹介されました。飢餓人口が最も多い地域はアジアです。過去10年間で飢餓人口は半減したにもかかわらず、ここ1、2年の間、政情不安や気候変動などの理由で、再び飢餓人口が増えつつあるとのことでした。

You can do it because I could do it!

ポリコ所長は、11歳で小さな村の家族を離れてから現在のように世界各国で働くまでの自身の経歴を紹介し、より大きな目標のために自分の何かを犠牲にすることの大切さを強調しました。最後に、自分にも出来たのだから、皆にもできると、大きなエールを生徒に送りました。



【生徒の感想】

- 考えさせられる内容に満ちていた。メモを取る暇がないくらい興味深い講演だった。
- FAOに強く興味を持った。将来の選択肢の1つとしてこれからもFAOについて調べたい。
- 自分たちが把握している情報は意外と曖昧で、正しい情報を知らなければいけないと思った。
- 食や農はあらゆることに関わっていることを知った。
- 生まれた場所や環境のせいで人にできないことはないと思い知らされた。チャレンジしてみることが大切だとわかった。
- 今年のSGH課題研究のテーマが食品ロスや飢餓なので、今日の講演はとても参考になった。
- 「失敗を恐れない」ということは全てに対して言えると思った。
- もっと英語力をつけなくてはとあらためて思った。
- 思ったより内容を理解できた。自分の英語力の向上を実感できた。
- 聞く前はリスニングの能力がないから無理…と思いましたが、意外と頑張れた。